

# 化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

後期

科目No.	555	科目名	コミュニケーション学特論4		サブネーム	NPO/NGOとコミュニケーション		
連携機関名	日本メディアエーションセンター	レベル	基礎		講義枠	木曜日	講義時間	18:30~20:00
科目概要(300字程度)	21世紀は環境の世紀と言われ、環境問題の解決と保全作業を進めるため、さまざまなテーマで幅広く活動が行われている。地球環境問題は、専門家のみが取り組みを行っても解決しない。そこで、地域の環境NPOから国際的環境NGOまで、さまざまな市民参加のあり方、問題とする点、科学的考え方などを学ぶことにより、多様な考え方と専門領域を結びつけリスクコミュニケーション的解決方法を探る。							

サブタイトル	No.	講義名	講義概要(150字程度)	講義日	教室	講師名	所属
はじめに	1	環境関連法と消費者のかわり	PRTR法、容器包装リサイクル法、食品リサイクル法など消費者は、企業や行政とどのように関わり情報発信してきたのか、現在の状況は？初回の講義として、本科目の講義の構成と関連についても解説する。	10月5日		有田 芳子	日本メディアエーションセンター
様々なNPO/NGOの活動	2	気候変動枠組み条約(COP11)の成果とその後の動き	京都議定書の次のステップに向けた国際動向、地球温暖化の進行と被害、国内政策・措置、地域レベルの取り組みなど、温暖化に関する様々な課題や展望を講義する。	10月12日		平田 仁子	気候ネットワーク
	3	「ファイバーリサイクルネットワーク」	「ファイバーリサイクルネットワーク」は、環境保全や、ゴミの減量化、市民基金、回収業者と市民がともに環境問題を考え持続可能なシステムづくりを目的に、1年間の実験回収を経て1992年に立ち上げた団体である。その活動を紹介し、市民参加、企業との協業について考え、新しい取り組みも紹介する。	10月19日		服部 孝子	ファイバーリサイクルネットワーク
	4	市民が里山を保全する意味と里山の自立	里山保全のボランティア活動は全国的に活発になっている。特に、里山という昔からはぐくまれた持続可能な仕組みが注目され、多くの参加者を集めている。都会で里山をつくる意味、活動の具体的な内容等を紹介する。また、自立に向けてどのようにシナリオを描くのか？先進的な取り組みも交えて紹介する。	10月26日		土屋 真美子	NPO法人横浜里山研究所
	5	家庭系有害廃棄物を考える	循環型社会の形成に向けて動き出したかのように見えるが、問題は山積しており、その最たるものが家庭系有害廃棄物の問題である。乾電池、蛍光灯、スプレー缶、プラスチックごみなどの適正処理の課題は、市民、自治体ともに頭を悩めている問題である。その現状や課題解決のための取り組みについて紹介する。	11月2日		原 強	特定非営利活動法人コンシューマーズ京都
	6	自動車排出ガスと健康影響・環境影響、問題と改善方策は？	ディーゼル排ガスの黒煙を減少させるための超高压燃料噴射システムは、この数年で2.5位マイクロン以下からさらにナノレベルにまで小さくなった。ナノレベルに生物が順応し対応力をつけるには数億年が必要だろう、健康影響・環境影響と改善方策を講義する。	11月9日		若狭 良治	NPO法人 クリーンエネルギーフォーラム
	7	自動車技術の発展動向とエネルギーの選択基準	自動車の技術発展はハイブリッド車や燃料電池自動車など目覚ましいものがある。先進技術は、錬金術に似てなんの役に立つかは不明なものが多いが、それ自身が役立たなくとも発生技術は様々な利益をもたらした。根本的に水素とは何かから考えてみる。	11月16日			
	8	コンブ等海藻による海の森づくり	『コンブ等海藻による海の森づくり』のため、海の森の様々な効果や影響に関する基礎研究の推進、環境対策や食料対策、さらに持続可能なまちづくり対策など、また、これらの情報発信のネットワーク化についての活動を紹介します。	11月30日	1号館204	竹本 道夫	NPO法人海の森作り推進協
	9	環境分野における市民参加～オーストラリア条約に学ぶ～	「環境問題は、それぞれのレベルで、関心のあるすべての市民が参加することにより最も適切に扱われる」とリオ宣言第10原則は述べている。なぜ市民参加が必要なのか、どのように市民参加を進めていけばよいのか等について、国連欧州経済委員会が採択されたオーストラリア条約を紹介し、市民参加型の環境問題の取り組みについて紹介する。	12月7日		中下 裕子	オース・ネット事務局
	10	「グリーンコンシューマー東京ネット」の活動	「グリーンコンシューマー東京ネット」は、「1人の100歩より100人の1歩」を合言葉として、グリーンコンシューマーを増やすための運動を行っている。市民・地域主導で実施した温暖化防止の動きも紹介する。	12月14日		佐野 真理子	グリーンコンシューマー
	11	なぜ今、自然エネルギーなのかー自然エネルギーが拓く北海道の可能性ー	エネルギーは石油、原子力といった外国依存の状況が続いているが、化石燃料に替わる自然エネルギー活用への期待も高まっている。その中で国内における地域社会では深刻な不況や過疎化の問題も抱えており、エネルギーの自給体制(循環社会)と深刻な地域経済の立ち直し=活性化とその可能性を自然エネルギーの活用について紹介する。	12月21日		竹腰 和夫	NPO法人北海道新エネルギー促進協議会
	12	「市民と企業の共同作業」	「市民と企業の共同作業」をモットーに、企業活動と持続可能な社会について調査研究している本研究会の活動を紹介します。今後の企業活動のあり方についてグループディスカッションを行う。また、環境報告書、CSR報告書等の分析をグループワークで行う。(なお、事前に分析対象の報告書を手直し、眼を通していただく。)	1月11日		角田 季美枝	バルディーズ研究会運営委員
	13	<気付く>「わたしたちの暮らしと化学物質ー身近にあるリスクー」	今日のわたしたちの暮らしは、あらゆる場面において多様な化学物質に囲まれている。それらのおかげで、便利で快適な生活が享受できるようになった。しかしその反面、化学物質によるヒトの健康や生態系への影響が危惧されるようになってきた。日常生活の中の身の回りの化学物質を中心に解説する。	1月18日		村田 幸雄	WWFジャパン(財)世界自然保護基金ジャパン
	14	<理解する>「化学物質とどう付き合うかー知らないといけない怖さー」	本来どのような化学物質もその性質を理解し、適切に取り扱えば、それほど怖がる必要はない。学校での「化学」は嫌いだっただけでも、ある程度の基礎的な知識があれば、リスクを避ける合理的判断をすることも可能になる。化学物質によるリスクに関する初歩的な考え方を紹介する。	1月25日			
	15	<安全な社会へ向けて>「自己防衛を超えてー社会は化学物質をどう管理すべきかー」	何万もの安全性のわからない化学物質に囲まれている今日、私たち個人が身を守るためにできる事には限界がある。また生態系への影響もほとんど分かっていない。これまでのモグラたたきの化学物質管理ではなく、「予防原則」の考えに基づいた新たな仕組みが求められている。国内外のそのような動きを紹介し、今後ありかたについて考える。	2月1日	文教1号館308		